

### 広域物流拠点(ロジスティック・ハブ)の整備

アゼルバイジャン政府は、ユーラシアの中心で東西・南北の輸送回廊が交差する自国の地理的特性、半径 1,000km 圏に 1 億 3 千万人の市場がある好立地を活かし、バクー近郊のアラト地区に広域物流拠点(ロジスティック・ハブ)の整備を進めています。アラト地区はバクーの南方 70km に所在し、ここに港湾、自由経済地域、空港、市街地からなる新たな都市建設が計画され、順次取組中です。

#### 1. バクー国際海洋商業港(Port of Baku)

(1) アラト地区ではまず 2018 年 5 月、「バクー国際海洋商業港」が開港しました(従来のバクー港を移転)。400ha の敷地に一般貨物船、RO-RO 船、貨物鉄道フェリーの各埠頭、保税倉庫・地域、コンテナヤード等が整備されています。同港公社のジヤドフ社長によれば、昨年の貨物取扱量は 400 万トン(35,000TEU)、今年もコロナ禍にも拘わらず 20%増の見通しの由。アラト・カザフスタン(アクタウ)航路とアラト・トルクメニスタン(トルクメンバシ)航路があり、カザフスタン航路は東西鉄道ルート※で中国へ繋がっています。取扱貨物の 85%がトランジット貨物(アゼルバイジャン輸出入以外)、その大半が東西方向(中央アジア・中国～トルコ・欧州)とのことです。

(2) 日本企業を含む多くの外国企業から、保税倉庫・地域の使用など同港に関する問い合わせが寄せられているそうです。ジヤドフ社長からは、日本企業の相談にも柔軟に対応したいとの話があり、下記担当者が紹介されました。

Mr. Zaur Hasanov, Head of International Relation Dept.

[zhasanov@portofbaku.com](mailto:zhasanov@portofbaku.com)

(URL)[Port Of Baku](http://PortOfBaku.com)

#### ※ 東西鉄道ルート

- ① アゼルバイジャンほか関係国の当局・公社の国際コンソーシアム「カスピ海横断・国際輸送ルート(TITR:Trans-Caspian International Transport Route)」により、中国(連雲港～新疆ウイグル)～カザフスタン(アルマトウイ～アクタウ)～アゼルバイジャン(アラト)と「バクー・トリビシ・カルス(BTC)鉄道ルート」を経由した、中国からトルコ・欧州に至る東西鉄道輸送が供用されています。
- ② 日本・アゼルバイジャン間の海上輸送(黒海経由、ジョージア・バクー間陸送)を鉄道輸送に切り替える検討をされる企業も見られるようです。(所要日数と料金(40ft コンテ

ナ)の参考事例:海上 45 日・4,600ドル、鉄道 14 日・5,200ドル)

## 2. アラト自由経済区域(AFEZ)

- (1) 上記港湾の隣接エリアに、アラト自由経済区域(AFEZ:Alat Free Economic Zone)の整備計画が進展中です。本年 5 月、大統領府直属の機関としてアラト自由経済区域管理庁(AFEZ Authority)が発足。同庁が AFEZ の運営・管理を担い、事業許可、税の減免、輸出入手続等に係るワンストップサービスを提供します。面積 850ha の第一期が本年内に着工、来年 7 月入居企業募集開始、2022 年 7 月供用開始の予定です。
- (2) 同庁のアラスガロフ長官によれば、AFEZ は世界的な輸出加工区の先駆けとされるアイルランドの「シャノン経済区域」をモデルに、トランジット以上の加工・製造拠点として企業誘致を目指しているそうです。あらゆる国内規制に代わり、同区域限定の特別措置が認められ、仮想通貨決済、デジタル貿易など今後の取引形態に柔軟に対応した制度インフラを提供するとのこと。また、入居企業には法人税、付加価値税、関税等の減免措置が提供されるとともに、区域内には職業訓練センターも設立予定で、企業の人材確保への便宜も図られる由です。
- (3) 日本企業の AFEZ への関心も高く、区域内の保税工場から CIS 諸国、イラン、トルコ等への輸出を検討される企業もあるようです。(CIS 自由貿易圏条約のオブザーバー国であるアゼルバイジャンは、一定の条件の下、ロシア、ウクライナ、カザフスタン等の同条約加盟国との関税が非課税となる由です。)

(URL)[Alat Free Economic Zone](#)

(以上)